



## <取材のお願い>

2023年7月21日

福島県立福島高等学校

国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）

さくらサイエンスプログラム推進本部

### 英国と東北の高校生が日本の科学技術の最先端研究を体験 ～福島の被災地では復興に向けた取り組みを学ぶ～

福島県立福島高等学校では、7月28日（金）～8月6日（日）、英国から高校生9名、教員1名、計10名を招き、科学技術体験コースのプログラム「日英サイエンスワークショップ」を実施します。彼らは、科学を通じた国際交流を推進する慈善団体・クリフトン科学トラスト（英国）により選出された高校生です。

クリフトン科学トラストは、東日本大震災後の2011年8月、被災した生徒の支援を目的に、福島高校を含む被災県の高校生を英国・ケンブリッジ大学に招待して、日英高校生のための国際交流（サイエンスワークショップ）を実施しました。これをきっかけに、東北地区と英国の高校生による「日英サイエンスワークショップ」が始まり、当初は英国で行われていましたが、2014年に福島高校が近隣県の複数の高校に呼びかけ、東北大学の協力も得て、東北地区で実施されました。

それ以降は毎年、東北地区と英国で交互に実施し、2020年よりコロナ禍でのオンライン開催を経て、今年度からは対面で再開されることになりました。

このワークショップは、日英の同世代の生徒たちが科学技術を通じて交流や議論をすることで、科学技術系人材としてグローバルに活躍するための能力を養うことを目的としています。今回のプログラムでは、日英の高校生たちが科学技術分野で世界をリードする大学の一つ、東北大学を訪問し、同大学の災害科学国際研究所・材料科学高等研究所・流体科学研究所の研究者から直接指導を受ける機会を設けました。また、東日本大震災や原子力発電所事故等による被災地を訪問することで、被災状況や復興に向けた取り組みを学び、今後の科学技術と社会のあり方について考えます。

本プログラムは、科学技術振興機構（JST）主催の「国際青少年サイエンス交流事業（さくらサイエンスプログラム）」\*に採択されたものです。

\*「国際青少年サイエンス 交流事業（さくらサイエンスプログラム）」科学技術分野における日本と海外の青少年の国際交流を推進する、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）の事業です。2014年の事業開始以来、約35,000名以上の青少年が来日し、そのうち約7%が学術や就業を目的として再来日しています。

<https://ssp.jst.go.jp/>





つきましては、日英の高校生たちが被災地を訪問する様子、東北大学の各研究室で最先端研究を体験する様子などを取材していただきたくお願い申し上げます。

なお、参加者をはじめ、実施担当の菊池啓一郎教諭や金澤秀樹教諭へのインタビュー取材もアレンジが可能ですので、ご希望の方は担当者までご連絡くださるようお願いいたします。

#### 【実施内容】

- 日本科学未来館見学、オリエンテーション、アクアマリンふくしま研修、意見交換会
- 被災地訪問・研修（東京電力福島第一原子力発電所、東京電力廃炉資料館、東日本大震災・原子力災害伝承館）
- 東北大学の研究室訪問（災害科学国際研究所、材料科学高等研究所、流体科学研究所、大学院生命科学研究科、同理学研究科、同工学研究科等）、成果発表

#### 【研修日程概要】

7月28日（金）	午後：入国、成田空港着
7月29日（土）	終日：日本科学未来館見学
7月30日（日）	午前：福島県いわき市に移動 午後：オリエンテーション、アクアマリンふくしま研修、意見交換会
7月31日（月）	午前：東京電力福島第一原子力発電所、東京電力廃炉資料館研修 午後：東日本大震災・原子力災害伝承館、宮城県仙台市に移動
8月1日（火） ～8月4日（金）	終日：東北大学の研究室訪問（9研究室に分かれて研修：災害科学国際研究所、材料科学高等研究所、流体科学研究所、大学院生命科学研究科他）
8月5日（土）	終日：東北大学青葉山キャンパス中央棟大講義室（各班の研修成果発表）、閉会式、東京に移動
8月6日（日）	午前：離日

\* 科学技術体験コースの上限が7日間のため、JST さくらサイエンスプログラムによる助成は8/3まで。

---

#### ■本件に関する取材申し込み・お問い合わせ先

福島県立福島高等学校  
担当：教頭 細谷 弘樹

#### ■国際青少年サイエンス 交流事業（さくらサイエンスプログラム）に関するお問い合わせ

JST さくらサイエンスプログラム推進本部企画運営室  
（担当：田中(禎)、太田）